

教区新報

第8号

発行 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号 本願寺神戸別院内
電話 (078) 341-5949

自らの生命を見つめる

最寄りに安志稲荷という神社がある。こ
こ数年前から人気が増えてきたようで、正月
三ヶ日には国道が停滞する有様である。人
気の原因は、その年の干支の大きな作りも
のを神社の入り口の所に設けたことにより、
評判が広まったらしい。ある人は商売繁盛、
ある人は合格祈願、又ある人は家内安全等
々々。ここに限らず全国各地の神社は大賑わ
いである。さらに初詣に限らず多くの人達
は諸々の宗教に走る。つまり自らの欲望を
満たさんがために、迷走するのである。こ
のような信仰はうわべだけの信仰にすぎな
い。しかも、日本の多くの人たちの特長で
もあり、その裏には大きな落とし穴がひそ
んでいる。真の信仰が得られない場合どのよ
うな状態に陥るのであるか。

最近、医療の現場において脳死とか、癌
告知の問題について論議されている。これ
はマスコミにも取り上げられ、私達にも知
るところである。この中の癌告知の問題に
ついて昨年、アルフォンス・デーケン氏の
講演を聞く機会を得た。氏はドイツ生まれ
で、人間学、老年学、死の哲学等を研究さ
れ、現在上智大学文学部教授である。講演
内容は私にとってやや難解ではあったが、
その中「病名告知をめぐって考慮しなけれ
ばならない背景要因について」の内容は、
考えさせられる点があった。告知する人の性
格、宗教や信条、医療に対する考え、経験
能力、その他等述べられた中、私は宗教や
信条という点について注目したい。

告知されると多くの人は、極度の不安に
かられ、絶望の淵においやられ憂鬱状態に
陥るのである。信仰のある人とならない人
ではこの時の行動が、随分と違ってくるの
は云う迄もない。氏は「信仰という点につ
いて、日本人は数多くの宗教を信仰し、信
心深いようだがいざ告知されると動揺は大
きいようである。本当に信仰しているのだら
うか。又、真の教えに逢っているのだら
うか。」と云われ、アメリカでは九八%告知し
た。この告知できない理由には色々ある
のだから、信仰の面もそのひとつである。
このような実状を知るにつれて、私は冒
頭で述べたことがダブって見えるのである。
うわべだけの信仰、その場限りの信仰であ
る限り、自らの生命を見つめることはでき
ないだろうし、又見つめられなければ、い
ま生きている喜びも見いだせないだろう。
自らの生命、生きざまを素直に見つめると
き、必ず心の拠り所となるものが必要とな
ってくる。真の教えに出逢った時、人は安
心し安らぎを得るのである。このことは大
きな喜びであり、人はこの喜びを誰かに伝
えたいものである。又、私たち僧侶は伝え
なければならぬ使命がある。私達は今の
現状をよく把握し、又反省し、基幹運動を
通して御同朋の社会へとまい進したいもの
である。

企画推進室 和田 宏之

「そうですな。あれからもう十年以上たち
ますな。早いもんや。それに近ごろとんと
あの歌ききまへんな。それ「解放歌」ちゅ
う歌」
「そやな。前ほど歌わんな」
「代わりにカラオケで演歌歌っているん
ちがいまつか」
「そうばかりとも言えんや。ただ、なん
ちゅうんか歌う場が非常に狭うなっている
ことはたしかやろな」
「わてはな、御院さん、なにも皮肉や厭み
言うてるんちがいまっせ。なんかとって
も淋しい気がしますんや。今こそあの歌が
歌われならんととちがいますんか。十
年前あれほど熱こめて歌った歌が今はばっ
ちがいますか」
「ああ、そのことや。それでの方が言う
のにはやな、自分は何故あの時、あのよう
な発言をしたのか、その時自分の心の底に
なにがあったのかを掘り下げてみるところ
いうことに行き当たると言わはるんやな。
その第一は、世界会議で「同和問題」とい
うことが出たとき咄嗟に「これは怖い問題
が出た」と思った。なぜ怖いという意識が
働いたのか。町田さんはそのことをこう言
うてはるんや」
「お母さんは叱ったんやで」
「あほらし。そんなん叱ったことになりま
つかいな」
「そやな」
「叱るちゅうのは間違いを正すことでし
やる。その時そのお母さんがやな、おまえ
の言っていることはどんなに間違った事な
のか、人間として恐ろしい言葉なのかを話
して聞かせたら、その子の頭には決して怖
い」なんて意識は生まれんでっしやるな。
「怖い」のはむしろ己の方や。それをそん
なこと言ってるの聞かれたらえらいこと
なるで、あの人ら怖いでちゅうことでっし
やる。子供に言って聞かせてその時理解で
きるかできんかでのうて親の姿勢ですわな。
なんですんか、その町田はんは「私の差別
意識を植え付けたのは母親であつた」と言
うてはるんや」

御同朋の社会をめぐって

出石組正福寺 山崎 一朗

たり、それでは流行歌と同じやおまへんか
「それではあなた、自分で歌つたらええや
んか」
「なんですつて御院さん、なんちゅう言い
方しなはるんや」
「ごめん、ごめん。悪かった。勘弁して。
言いかた悪かった、気悪るせん」とい
「気悪るしますがな」
「いや、あなたの言うことな、私自身にも
そういう気持ちには確かにあるんや。そんな
らお前自分だけでも歌声絶やさんように努
めていつたらどうやと自分に問いかけてみ
るんやが、その決断も勇気もあらへん。そ
れをズバツと言われるとついあんな言い方
になつてしまつてな」
「そない言われたらわても同じですけどな、
たわけですな」
「お母さんは叱ったんやで」
「あほらし。そんなん叱ったことになりま
つかいな」
「そやな」
「叱るちゅうのは間違いを正すことでし
やる。その時そのお母さんがやな、おまえ
の言っていることはどんなに間違った事な
のか、人間として恐ろしい言葉なのかを話
して聞かせたら、その子の頭には決して怖
い」なんて意識は生まれんでっしやるな。
「怖い」のはむしろ己の方や。それをそん
なこと言ってるの聞かれたらえらいこと
なるで、あの人ら怖いでちゅうことでっし
やる。子供に言って聞かせてその時理解で
きるかできんかでのうて親の姿勢ですわな。
なんですんか、その町田はんは「私の差別
意識を植え付けたのは母親であつた」と言
うてはるんや」
「そんなことは言わんな。わが親のこつ
ちや。それから「日本とインドだけをなせ
殊更に取り上げるのか」という不満は白人
に対する敵愾心であり、裏返されたコンプ
レックスであつたこと、インドのアンタツ
チャブルと同格に扱われたくないという
優越感、そういう自分のうちにあつた心の
潜みを町田さんは告白しておられるんやな。
私はその人に会ったことも、話したこと
もないで、しかし、この人は少なくとも日
本の宗教界を代表する人達の一人やろ、そ
ういう人が自分の内にある誤りを素直に認
め話さつたということには敬意を表するな。
みてみいな、今の宗教界でも差別発言で追
及される人ないとはいえんわな。その人た
ちどうや。ひたすら「謝り」の一手や。
自分の内の何がそういう発言をさせたの
かをズバツと言う人あらへん。その方がよ
っぽう悪いで」

門徒推進員コーナー

私達の法座

水上東組、私の住む山南町は、花と緑の町で知られています。美しい山なみ、川のせせらぎ、田園と、大自然が一つばいの農村です。名所旧跡も多く、人々は素朴くで人情に厚く、とてもいい所です。

私は、昭和六十年、明光寺若仏婦の仲間三人と、仏士の松下さんと五名で中央教修を受けました。六十一年より伝道活動として、仏士の松下さんの編集で、毎月一回、明光寺新報を発行しております。毎月十五日は住職様によって法座が持たれます。又、坊守様が大変熱心なお方で、昨年六月より毎週一回法座を持って下さって、今の所女の方ばかり二十名程が熱心に御聴聞させていたしております。始めの頃は寝むいとか、しんどいとか言っていた人も、後生の一大事「聞かざるにはおられない」という坊守様の熱意に、私達も「聞かざるにはおられない」という気持ちとなり、皆んな週一回の法座を待ちかねたようにお寺に集まってまいります。坊守様から仏書もお借りして読みます。未耶識、阿頼耶識のお話、十九願、二十願、十八願、三願転入のお話聞けば聞く程に罪悪深重の我が身と知らせていただきました。浄土真宗は不体失往生この世でのお助け、でも、信心決定する事のむずかしさ、余程真剣に正しく御聴聞せねばと痛感いたしております。

積尊も、親鸞聖人も共に「仏法は聴聞に極まる」と教えられました。蓮如上人は、「火の中を分けても法は聞くべきに、雨風雪はものかすかか」と教えられ、また「仏法には世間のひまをかききき聞かべし」とまで言い切っておられます。御一代聞書の中にあります赤尾の道宗の本を読みましたが、昔から妙好人といわれる方々の聞法はそれこそ命がけのきびしいものでした。敷ぶとんの変りに割木を並べてその上に寝たという道宗「わしの様なしぶとい人間は布とんの上に寝てをれば、御恩を御恩を思わず

に一ばん中寝てしまおうから、せめては寝にくい様にして、寝覚めの間だけでも如来様の御慈悲を思わせていただき、念仏申させてもらおうと思う」とこの様に言っておられます。自分にきびしく、人には優しく、真の念仏者の心に感動いたしました。

御門、主様の「み教に聞く」という本の中に、浄土真宗のところに大事な点は、真実に目覚めると同時に自分の真実でない姿に目覚めるという、つまり自分自身が変わるという点に大事などころがあると仰せられています。私は中央教修の法座で問題になりました神棚を昨年やっとおろす事ができました。人間として生まれさせていたたたき尊を思い、又聞き難い仏法を聞かせていただく事のありがたさを思う時、報恩感謝の毎日を送りたいと思えます。そして私達の法座の輪が大きく広がっていく事を念じています。

組の活動

水上東組 明光寺 西脇 ちかゑ

佐用組は兵庫県の北西部に位置する赤粟郡の千種町に三ヶ寺及千種町を源とする千種川の流域佐用郡南光町に四ヶ寺三日月町に一ヶ寺佐用町に七ヶ寺と二郡にわたり四ヶ町十五ヶ寺によって組織されて居ります。以前は揖保郡新宮町の九ヶ寺を含めた二十四ヶ寺でありましたが新組画によって現在の組に変更され以前より区域が縮小されたもの、組で実施する連研、教化団体の研修、総会等参加者の交通の便が自家用車でなくは殊の外悪くこの事の悩みがありました。したが、この不便を補うため現在では組内寺院の共同で購入した、マイカーパス(二十五人乗り)を各寺の法要、研修、本山参拝及組、教区の研修その他の行事等の参加者に利用していただき昭和六十二年においてはその利用が百日以上に及び教化活動等に役立って居ります。

昭和六十年四月の組会において左の大綱を決定しこの大綱にもとづいて活動を推進することと致しました。

- 昭和六十二年度佐用組事業計画大綱
 - 一、 基幹運動の推進
 - 二、 組基幹運動推進委員会の活動
 - 三、 第五期後期組連研の実施
 - 四、 中央教修の受講—門徒推進員の育成
 - 五、 青少年教化の推進
 - 六、 教区青僧会、仏青年連盟への加入
 - 七、 各教化団体の教化事業の充実促進
 - 八、 各組法座の振興
 - 九、 寺門の護持発展と連帯意識の向上
 - 十、 法人税務についての関心と協力
 - 十一、 各寺法座活動の見直し
 - 十二、 口組仏法活動の活発化
 - 十三、 組連研に積極的に参加して中央研修へ
 - 十四、 組内単位仏士の結成促進
 - 十五、 社推協活動へ協力、本願寺新報の購読
 - 十六、 八組仏法活動の推進
 - 十七、 組連研に積極的に参加して中央研修へ
 - 十八、 初参式、降誕会の開座、仏式結婚式の奨励
 - 十九、 組内単位仏婦の結成、若婦人の集い開講
 - 二十、 二任職、寺婦の自己研修
 - 二十一、 教員の研鑽と声明作法の徹底
 - 二十二、 青僧会の育成につとめ青少年の教化の推進
 - 二十三、 各寺の連帯強化
- 以上にもとづいて、第五期連研を主体とし各教化団体の研修、行事等を実施して来た。例年実施している組総代会、組仏教婦人会の本山参拝一泊研修、各寺の住職寺族門徒総代々参、教化団体代表の参加、参詣による組総門徒追悼法要並に布教大会は年々参加、参詣者が増えている傾向にあるので喜ばしい現象であります。昭和六十二年度も終盤近くとなり、活動も大綱とは程遠く昭和六十二年度は「門主の」巡教が決定された年であり一層各寺の連帯を強化してこの大綱を持続的などとりくみとして前進したいものであります。
- 佐用組相談員 亀岡 周明

伝道

眞実信心の行人は撰取不捨の故に正定聚の位に住す
この故に臨終をまつことなし来迎たのむことなし

ビハラー、あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、今、本願寺では仏教ホスピスとしてビハラー活動を推進しています。ビハラーとは仏教のふるさとインで経典を製作するときにサンクリットという言葉を用いたが、そのサンクリットでビハラーといいますが、その意味は「休養の場所、仏教徒の僧院」をあらわします。

ビハラー活動の中心は末期患者のケアであります。言い換えれば人として死を同じことは考えられにくいものですが、死そのものは同じ意味を持つていと言えます。幸いにしてお念仏の教えに出会うということは、死そのものが決して終わりではなく、お浄土へ帰らせていただくという新しい命の誕生でもあります。ビハラーでは死を看取することを一つの大きな柱としています。

看取るといふことは何も手を取らないで手をこまねてじっとしていることではありません。死がもたらす恐怖心を和らげ、死によって家族等の残された人々の不安を少しでも少なくし、患者自身が死を受け入れられる状態に導くこともビハラーの目的であります。

幼ないうちを亡くした人が言われる言葉に、かわつてやれるものなら代つてやりたいという言い方がありますが、それは実際には代ることができない事を私自身が受け取れることです。ビハラーと同じホスピス活動の創始者とも言われるキューブラロス女史は死と死ぬことは別のことと言われました。痛みを分かちあい、苦しみを和らげることに以上、同じ人間として避けられない死を予め体験することもビハラー活動の一面であります。

日常生活の中で私たちは死を避けていないでしょうか。死と直面しなければ、本当の生きる意味は理解できないものです。病院には四号室がないとか、車のナンバーにも下二ケタには四二がないとか、おかしなことです。痛みを分かちあうこと、あなただけに死が訪れないとしたり、あなただけに人生の意味を、生きていくよるこびをどのように見出されるのでしょうか。限られた命であるからこそ大切であり尊いものとなりうるのであります。考えてみましょう。

赤穂北組浄蓮寺
増井 浄見
(モダン寺テレホン法話より)

テレホン法話ガイド

- モダン寺テレホン法話 (本願寺神戸別院) ☎078-361-0091
- 勝林寺テレホン法話 (出石組勝林寺) ☎079652-5800
- 網干組テレホン法話 (網干組長事務所) ☎0792-74-0874
- 浄専寺浄土真宗テレホン法話 (赤穂南組浄専寺) ☎07914-2-1544
- テレホン法話 正願寺 (加古川組正願寺) ☎0794-37-4133
- 浄光寺ダイヤル法話 (神崎組浄光寺) ☎0790-32-2260
- 法親寺テレホン法話 (岡山南組法親寺) ☎0863-32-0040
- ふれあいテレホン法話 兼誓寺 (阪神西組兼誓寺) ☎0798-48-1212
- 浄土真宗テレホン法話 (淡路組長事務所) ☎0799-23-1313
- 武庫川モシモシセミナー (テレホン法話・みほとけとも) (阪神西組門徳寺) ☎06-416-1212
- テレホン法話 (仏典物語) (城崎組明元寺) ☎07962-3-6393
- 正光寺テレホン法話 (北摂組正光寺) ☎078-982-2000
- 妙覚寺テレホン法話 (播磨東組妙覚寺) ☎07948-3-4141